

第3回裾野市観光基本計画策定委員会 会議録

【日時】平成22年12月14日（火）18:00～20:00

【場所】裾野市役所 4階402会議室

【出席者】＜委員＞

木村 繁（有限会社木村商店／代表取締役 ・ 裾野市観光協会／顧問）
庄司 政史（株式会社時之栖／取締役専務 ・ 裾野市観光協会／理事）
岩田 翼（有限会社ワン・テン／代表取締役 ・ 裾野市観光協会／副会長）
道本 晃一（株式会社フジヤマリゾート／取締役社長 ・ 裾野市観光協会／理事）
羽田 耕治（横浜商科大学商学部貿易・観光学科教授）
石井 尚子（公募）
長澤 志郎（公募）

【欠席者】＜委員＞

中川 敏夫（株式会社三ツ輪交通自動車／代表取締役社長 ・ 裾野市観光協会／理事）
濱中 幸（富士サファリパーク／取締役園長 ・ 裾野市観光協会／理事）
杉山 共実男（南駿農業協同組合／北部地区本部長）

【次第】

1. 開会
2. 議事
 - (1) 裾野市における観光の現状と課題の整理
 - ① 観光の現状
 - ② 観光を取り巻く動向
 - ③ 裾野市観光の課題と方向性
 - (2) 基本方針の検討
 - ① 計画の理念
 - ② 施策の方針
 - ③ 施策の体系
 - (3) 基本計画の検討
 - ① 「観光のまち・裾野」のイメージアップ～裾野市ならではの魅力の創出～
 - ② 観光資源の多様な連携、ネットワークの形成
 - ③ 多様な体験、保養観光、スポーツ・健康増進の振興
 - ④ 富士山の裾野のまちにふさわしい景観の形成
 - ⑤ 「食のまちづくり」の推進
 - ⑥ 広域観光ネットワークの構築
 - ⑦ 観光プロモーションの強化
 - ⑧ 「おもてなしのまち」づくり
 - (4) 自由討議
3. その他
4. 閉会

【議事詳細】

1. 開会

産業建設部 勝又壽彦部長

現在様々な計画を抱えている中で、この観光基本計画は非常に分かりやすく無理の無い計画になるのではないかと感じ、期待している。

2. 議事

(1) 裾野市における観光の現状と課題の整理

(2) 基本方針の検討

(3) 基本計画の検討

事務局より、上記 3 項目について説明。

(「第 3 回裾野市観光基本計画策定委員会検討用資料」参照)

(4) 自由討議

今回出席の 7 名の委員が、上記 3 項目の内容について討議した。

【道本委員】

これまでの課題の整理等では、裾野市の特徴は如実に表れているというところまでではないと感じた。

裾野市だからという面も具体的に出ているところもあるが、これを裾野市の観光基本計画としてまとめるのは難しいと思った。

割と全体を網羅されているのは確かだが、これからどう繋げていくのかなという考えはあった。

【石井委員】

この基本計画を策定して、誰が主体となり動くのか。

⇒【木村委員長】

基本的には観光基本計画を作るのは行政であり、それに携わるのが一般市民。

【羽田委員】

計画として載せられるか載せられないかの精査が必要。

誰が中心でやるかというのとは二通り考え方がある。

1. 細かいレベルで、行政が中心、民間の事業者が中心、市民が中心という風に振り分けるやり方。

2. 計画の推進体制という項目を作って、行政、観光協会、民間事業者、市民というようなことで連携してやっていく。

毎年しっかり計画が実行されているか、まだなのかのチェック体制をきちんとしていかなければいけない。

この計画を行政が全てやることはできない。それに、行政は、部長・室長は大体 2 年、長くて 3 年、一般の職員は 3 年、長くても 5 年で変わってしまうので、計画を作って実行されていく過程で行政の方は変わってしまうので、どういう体制にしていくかということも考える必要がある。

【石井委員】

計画を策定して実行しなければ意味が無いので、どのように実行していくのか、例えば 5 年計画であれば最初の 1、2 年、短期、中期、長期という感じで、それぞれいつまでに何をどこまでやるかという計画を立てるべき。

その上で、企業や学校、NPO 法人に依頼するような、音頭をとってくれるところがあれば安心感があって良いのでは。

⇒【羽田委員】

石井委員の意見は核心をついていて、今全国 1800 弱の市町村があって、95%くらいが観光に力を入れると言っているが、石井委員が指摘したことはまずできていない。

ここ 3、4 年でその問題意識が出てきたが、費用も掛かり、誰がというように人の問題があるので、非常にもがき苦しんでいるところが多いのが実状。

【長澤委員】

この資料には同じようなことが相当入っている。

裾野市はこれまで工業を中心としていたので、観光というのが初めてで、観光の位置づけを市民に理解してもらうのは非常に難しい状況だと思った。

裾野市の課題と方向性は 7 つにまとめられているが、まとめられた課題と方向性を基本方針の中にどういう風に打ち込んでいるのかが見えてこなかった。

課題を具体的にどうやってやるのかという項目についてページが分かれてしまっていて見えてこないのので、一体的にわかるような形にしてもらおうと理解しやすい。

総花的に出ているので、これを全てやれると良いのだが、各項目で裾野市で何が重要なのか 3 項目くらい挙げて、その重要な中で施策は何か、その施策も 3 項目くらいをやれることからやっていく方向付けをしなければいけない。

全部実行するのは無理があるので、目的を 3~5 つくらいに集約して、重要な項目を選択させるようにして進めていくべき。それを具体化して最終目標はいつぐらいまでに方向付けをするのか、いつまでにどんな具体的な施策でやるのかを示すべき。

⇒【石井委員】

5 年計画の中では多すぎるので、できる範囲でやるべき。

【羽田委員】

長澤委員の意見を否定するわけではないですが、基本計画なので色々書き込んでいかなないと、後で〇〇〇が無かったという話にもなるので、一旦は総花的、総合的に方針を作らなければいけないと思う。3 年や 5 年でできることは限られているので、一旦総花的、総合的に書いておいて、裾野市の現状・課題からして何を優先的にやるべきかを続けて書き込んでいけば良いと思う。

全体像が分からないということに関しては、最終的に全体の流れ図のようなものが作られるはず。

【事務局】目次案の資料参照。

第 2 章の 4 番で計画の体系図で、課題と理念、施策が体系的に A3 でおそらく見開きで入る予定。

【道本委員】

基本的な考え方・方向性を示す観光基本計画を策定するわけなので、裾野市の観光の憲法になるものなので、これは5年とかではなく、30年50年と先を見越したものをやる。

5年経つと違う考えも出てくるだろうから、5年ごとくらいに見直しが必要になると思う。

これは方向性なので、例えばその方向と違うことをしようとする民間企業や事業者、個人に対しては、裾野市の条例もしくは行政指導等で規制することと同時に、例えば富士山ビューポイントの選定や整備のような行政で行うものを分けてやっていくのだと思うが、これだけ具体的になっているとどうやってまとめるのかということが気になる。

【羽田委員】

方針レベルで終わってしまうとよくわからないので、参考例示として書いておいた方がいいと思う。

【道本委員】

この基本方針の検討のところまでだと非常に総花的で分かりにくいので、具体的なこの例に対して行政はこういうことを指導するとか、これをして欲しいというようなことにするとか、行政がここを整備していくというものになる。

例示の中から5年と言わず、1、2年の間にやるべきもの等、委員で時間を掛けるものや、早くやるべきものを選定していくべき。

【岩田委員】

例示は例示で良いと思う。この計画の理念と施策の方針ぐらいがある程度きちっと決められれば良いと思う。

例示の中で例えば、農業体験や観光農園というのは農林振興室、景観に関しては都市計画室が関連している。だから役所の中でも各担当で体制の構築をしていくことが必要。

各観光業者、観光と密接に生業としておられる方々の商売の進め方と、街としての進め方が相反する場面が考えられるのが1つ問題。

参考例示の中で具体例が挙がっているが、既に着手しているものがあるので、その人たちをバックアップする体制が必要。

誰がやるのかといったような『人』の問題。

【庄司副委員長】

参考例示については、前回の皆さんの意見がだいぶ網羅されている。

色々な会議があって、色々な目的があって、全ては裾野の活性化など、目的は最終的には一緒になるはず。

東富士とか表富士といったブランドを元にどうするかという方向を皆同じにしていかなければいけない。

基本的には外からどう見るか、どう見られるか、外に対してどうするかという、その視点で統一した話をしていかないとぶれてしまう。

例示としては十分、何でもあって良いと思うので、その中でピックアップしてまとめていくことが大事だと思う。

進捗度合いのような、5年と言わず1年間でできること、3年間でできることを明確に市民に明示していく必要はあると思う。

外から観光という部分を映していった方が良いと思う。

【岩田委員】

去年 B1 グランプリで秋田県の横手市に下見に行った際、街や市役所を挙げてのイベントだったにも関わらず、そのイベントの時期は稲刈りだから人が来ないという意見を言われ、持参した量を自主規制してしまった。結果は言われていた以上のお客さんで品物不足という状況となった。せっかく全国から来ているのに、水をさすような発言があって残念だった。同じようなことが B1 富士宮大会の後に裾野市の役所の中にもあり、労いの言葉ではなく、熱を冷ますような発言があって残念だった。問題はどれだけ良いものを作っても街としてどれだけきちっとやっていくかの熱意を市民、市外の人に示していくかが大事。委員だけではなく、観光業者、観光関係者、農業関係者、市役所の商工観光室以外の部署の人たち全てに市の基本理念をきちっと理解して欲しいと思う。

【産業建設部長】

これは観光だから商工観光室ということではなくて、農林振興室、都市計画室、生涯学習室、地域振興室など色々なところに当てはまると考えている。そう考えていると、市役所内で横の連絡を取って観光基本計画というものに集まってくるという風を感じた。当然行政だけでは決してできないので、色々な市内のボランティアの方や企業のボランティアの方が、何かこの計画の中で1つでも当てはまればお互いに支援して頂ける、協力して頂けるということで、色々な意味でネットワークが構築されていくのではないかと思う。

【木村委員長】

この例示等を精査していきたい。

⇒【岩田委員】

これはあくまで例示なので、削減してしまうより、色々なものを例として示しておく方が良いと思うし、見られた方がもしかしたら削減しようとしていたものを「これならできる」というように実行しているといったものが出てくるかもしれない。それに、これはあくまで例なので、必ず実行すると捉えなければ良いと思う。もっとたくさん載せてもいいような気もする。

【庄司副委員長】

最終的にピックアップしてやっていくのか、方向性を統一して意見をまとめることになるので、皆の意見を聞くことは大事だが、後から聞くことも大事だと思うので、まずはこの中で決めることをやるのが大事。

この中での1つの方向性として、観光ということにある程度絞って見直すことが必要。

【木村委員長】

今の委員の方々の意見を聞いて、事務局としてはどのような意見か。

⇒【事務局】

観光基本計画で例示という形ではなく、差し障りのない言葉でまとめてしまうと非常に抽象的になってしまう。しかし、そうすると中身は何なのかということになってしまうので、今回印刷物としては抽象的な言い方で良いのか、例示は例示で別に入れるか。今の例示はあくまで例示なので、分けて表現をすればいいかなという印象を受けた。

【岩田委員】

例えばこの例示の中で、既に着手されているものがあるので、誰々が着手しているといったような形で表現を入れてもらっても良いかと思う。

景観の面も含めて、例えば市内の電線全ての地中化を推進するとか、難しいことは承知しているがそういったものを街としてやっていく姿勢を示していかなければいけないと思う。例えば富岡から上の地域はもう電線は一切立たせないといったような都市計画決定をすることも必要になるかもしれない。

⇒【産業建設部長】

あまり景観に関してはきつい規制のようなものは掛けない方向である。

電線をなくすのは莫大な費用が掛かる。

【岩田委員】

是非努力目標でもいいのでお願いしたい。

街で目標を出せば、例えば東京電力が何か協力してくれたり、負担してくれたりというような意見が出てくるかもしれないが、少なくとも動きを出さなければ何も無い。

パノラマロードのところの電線地中化も、現在行われている歩道の工事と一緒にやればもう少し安くできたという話を本当かどうかは分からないが、聞いたことがある。

【産業建設部長】

電線の話は我々が思っているほど、歩道ができたから地中化しようというレベルの金額ではない。

【道本委員】

この計画を作る裾野市の気持ちは、観光の基本方針を決めたいということだと思う。方針を決めるということは、そこに予算を付けるということで、予算を付けてもらうための基本計画であると思う。だからある程度例示としてこういう計画、こういう基本方針で、観光のまち裾野のイメージアップを図るのに例えばこういうことをしていくようにして、予算を付けていくのだと思う。どの事業にどの程度予算が付くかは分からないが、予算を付けてもらうためには具体的なもので、これは3年以内に望ましいとか5年以内に望ましいというように、ある程度この計画の中に入れてもらいたい。

【石井委員】

例えば5年というスパンで考えると今は無理とかというような精査をするのか、とりあえずこれは参考例示を参考にして市民レベルでこれは入れたら良いとか、これは無理ではないかというような話し合いをしたいと思う。

何かを切ってしまったら可能性があるのという話になるが、実際にこの基本計画ができたから誰が読むのか疑問。例えば広報すそのとかで読む方もいると思うが、どういう風に展開していくのかが分からないし、実際この基本計画を読んだ方がやってみたいものがあっても、どうやったら活動に参加できるのかということも分からない。せつくなので例示をして、参考例示から精査して、第4章の取り組み時期と担い手というものをやっていくような流れの方が絵に描いた餅にならないような気がする。

⇒【道本委員】

そういう意味では、この計画ができてこれを読む人はなかなかいないと思う。

だから例示の内容が分かるものを広報と一緒に配れるのが一番望ましいのではないかと。

【木村委員長】

いかに市民の方にこの基本計画の情報を発信するかということが非常に重要だと思う。色々良い案を出しても、それを市民が理解してくれなかったら、少人数で終わってしまって意味が無い。1枚の紙ぐらいにまとめた分かりやすいものを発信していかなければいけないと思う。

【岩田委員】

ここに出ている例示は全て載せた方が良くと思う。そういう中で重点項目、具体的施策項目のようなものを話し合っ、具体的なものに対して目標年度のようなものを当てはめていけばいいのではないかな。

現に今やっているものは、その人たちをバックアップするということをやっていけば良いと思う。

⇒【石井委員】

具体的には？

⇒【岩田委員】

パノラマロードを花でいっぱいにする会が梅の里周辺で花を植えている。

森林ウェルネスウォーキングが始まっている。

道の駅については市長の公約の中にある。

森林ウェルネスウォーキングロードはかぶる。

観光協会で新商品開発プロジェクトの中で、裾野駅を起点とする回遊ルートの整備、

ハイキングコースの設定。

【木村委員長】

この例示の中で既に進んでいるもの、これからやろうとしているもの、これからも具体的に長期でやっていかなければいけないものを、順番にチェックしていきたい。

1番の観光のまち裾野のイメージアップということで、パノラマロード、愛鷹山ハイキングコースなど、市内の富士山ビューポイントを選定して写真撮影や休憩が可能な施設づくりは、行われていない。

観光農園はまだありません。

【事務局】

今全部精査して重点を決めるとなると非常に時間が掛かるので、一度持ち帰って、まとめて頂いた上で、4回の会議をもう1回開き、その上で検討して頂きたい。

【木村委員長】

各委員の方々、自分なりの意見で結構ですので、1番目に取り上げるべきとか、ランク付け等チェックして頂き、その上でもう一度委員会を開きまとめていきたいと思う。

気づいた点や付け加える点等検討願いたい。

【羽田委員】

ここに出ている既に取り組まれているものでも、今後とも継続してやっていかなければいけないもの、そういったものはしっかりと書き込んでおいた方が良くと思う。だから現在やっているから不要というのではなく、継続すべきものとして明示しておいた方が良く。

計画の推進体制で、役所の中での関連部署との連絡会議といったものも必要になると思う。

役所内で情報の共有がしっかりとされるように気をつけるべき。

【道本委員】

次回の会議までに計画の体系図を簡単なものでいいので見せてもらいたい。

⇒【事務局】

非常に抽象的な表現になりますが事前に示します。

3. その他

今回はその他連絡事項等はなし。

4. 閉会

庄司政史副委員長

静岡県内の市町村が 74 市町村から 35 市町へ再編されている今、3 年後、5 年後はどうなっているか分からない状況。皆さんの素晴らしい意見をまとめて、できることをしっかりやり、できないことは後にし、やらなければいけないことは優先させてしっかりとした観光基本計画が策定できればと思っている。